

「地域生活学研究」創刊に際して

—円形劇場からの発信—

この小冊子は、平成 21 年度の富山大学学長裁量経費の研究プロジェクト『「地域生活学」の創出のための学際的共同研究』の報告書です。経費の支援を受けて、ささやかな集まりではありますが、私たちは「地域生活学研究会」という研究会を立ち上げました。研究会を立ち上げるにあたって課題として意識したのは、地域の問題を生活者の視点から捉えていこうということです。

21 世紀の地域社会は、少子高齢化の進行、コミュニティの形骸化、地域文化・伝統文化の喪失、自然環境破壊、生活環境劣化、経済活動の沈滞化などの多くの問題に直面しています。これらの問題には多様な要因が絡み合っていると同時に地域固有の社会経済事情が深く結びついているために、縦割り行政による画一的な施策では問題解決が困難となっています。これらの問題群を解決して持続的で内発的な発展が可能な地域社会を構築するためには、地域の諸事情を多面的かつ精細に理解した上で、当該の地域で生活を営む人々—「生活者」—の視点から諸問題を捉え直して解決の方途を探らなければならないと考えます。そして、このような作業のためには、生活者をとりまく自然、社会、経済、生活、教育などの諸側面を考究する個別の学問分野を地域固有の事情に即して有機的に関連させる新たな知の枠組み、すなわち、「地域生活学」という総合的な視座が必要とされるでしょう。

私たちは、このような問題意識をもとに研究会をつくり、講演会やフォーラムを開催し、また、個別の研究活動をおこなって、その成果をこの冊子にまとめました。しかし、さまざまな分野の研

究の有機的な連携や自治体、NGO・NPOとの連帯は端緒についたばかりです。何よりも、私たちは、地域の人々との対話を続けていかなければなりません。私たちは、これからも、地域の人々のなかに分け入り、自らも生活者として地域の問題を考えていく作業を継続していきます。この意味で、この小冊子は、端緒についたばかりの私たちの試みの報告書であるとともに、今後の研究と実践に向けての橋頭堡としての創刊号でもあります。

登山家でもあり、明治に来日して日本のアルピニズムの創成に大きな影響を与えたイギリス人宣教師ウォルター・ウェストンは、富山の地形を「三方を山々に囲まれた自然の壮麗な円形劇場」と表現しました。私たちは、この壮大な舞台に営まれている生活と生活が直面している課題を理解し、富山から「地域の学」を発信していきたいと願っています。まだ、ひそやかな声にすぎませんが、この小冊子のなかに私たちの願いを聞き取っていただけたなら、これにまさる喜びはありません。

2010年3月

研究会代表

富山大学人文学部 竹内潔